

## 気になる行動への対応について

愛知県医療療育総合センター地域支援課  
発達障害・療育支援グループ（障害児等療育支援事業）

### 気になる行動とは

例：かんしゃくやパニック、自傷、他害、離席して立ち歩く  
他児との距離が近すぎる、よく他児とトラブルになる、  
切り替えが苦手、集中力が続かない、身の回りの整理が  
苦手、その場に合わない発言をするなど

※ここでは、いわゆる問題行動のことだけではなく、支援が必要な場面やお子さんの気になる姿も含めて「気になる行動」とまとめています。

### 気になる行動についての基本的な考え方

気になる行動がある場合に、危険なことや人に迷惑をかけて  
しまうことはその場で制止することが必要になります。

しかし、制止してその場は一旦収まっても、似たような状況  
になれば再びその行動が起こります。

それ以外の行動であっても、環境や状況が変わらないと同じ  
ような場面で同じような行動が見られます。

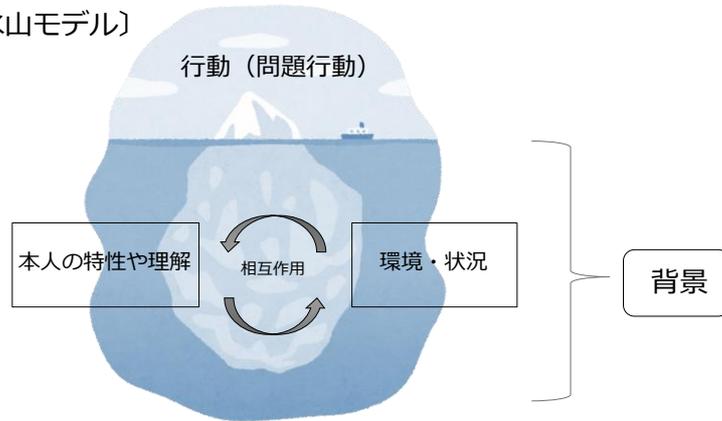
支援者が関わり方を変えたり、環境を調整するなど、支援の手  
立てを考えていく必要があります。

### 行動の背景に着目する

気になる行動を見せるお子さんを目の前にしたときに、支援者  
は（その子の発達段階や性格や障害特性などを知っていることが  
前提で）「なんでこのような姿なのかな…」「どうしてこんな  
行動をするのだろうか？」と考えていく（＝行動の背景に着目す  
る）ことが大切です。

実際に目に見えている行動だけではなく、本人の性格や特性、  
今までの経験や気持ち、そして環境などを総合的に考えていく  
ことで、支援の手立てが考えやすくなります。

## 〔冰山モデル〕



### 本人の特性や理解

- ・障害特性
- ・発達段階
- ・理解していること、できていること
- ・物事の認識のしかた
- ・好きなこと、得意なこと、苦手なこと
- ・人とのかかわりの状況

### 環境や状況

対象となる行動の起こりやすさに影響があると考えられる周囲の環境や状況。

- ・部屋やスペースなど、空間的なこと
- ・モノに関すること、人に関すること
- ・スケジュールなど、時間に関すること

## 冰山モデルを使用するときの流れ

- ①気になる（問題となる）行動を決める。
- ②本人の特性や理解について考える。  
環境（空間、モノ、人、時間など）について考える。
- ③仮説を考える。  
②の行動の背景を手がかりに、なぜ①の行動になるのかの仮説を考える。
- ④仮説に基づく具体的な支援を考える。
  - ・③で考えた仮説を基に支援を考える。
  - ・解決策にとびつかない。

## 冰山モデルを使用した一例

例

**行動：**気に入らないことがあると、  
相手を叩いたり噛みついてしまう

**(具体的な場面)**

他の子が使っているおもちゃを取ってしまい、  
取り返される。その後、泣きながら相手を叩いた。

この部分⇒

行動

背景

行動の背景

本人の特性や理解（推察できることも含めて）

- ・言葉で自分の気持ちを伝えるのは難しい。
- ・状況や他者の気持ちや意図を汲み取ることは難しい。
- ・大人数がいる場所は苦手。
- ・目から入る刺激に対して反応しやすい。
- ・興味の対象があまり多くはない。
- ・ふれあい遊びは好き。

環境や状況（空間、モノ、人、時間など）

- ・教室内は園児20名と担任保育士、加配保育士1名がいる。
- ・遊びの種類別に場所が区切られている。
- （おもまごとコーナー、ブロックコーナーなど）
- ・コーナーによっては人が密集するところもある。
- ・加配の保育士がいるが他にも対応が必要な児に対応していた。
- ・外遊びが終わった後の、自由時間に起こった

この部分⇒

行動

背景

仮説を考える

自分の気持ちを認識したり、言葉で伝えることが難しい。

本人ができる方法で気持ちを伝えようとしたのかもしれない。

その時の状況を理解できず、混乱や不安があったのかもしれない。

興味の対象が多くはないことから、  
教室の中で他に楽しめる遊びが少ないのかもしれない。

行動の背景

本人の特性や理解（推察できることも含めて）

- ・言葉で自分の気持ちを伝えるのは難しい。
- ・状況や他者の気持ちや意図を汲み取ることは難しい。
- ・大人数がいる場所は苦手。
- ・目から入る刺激に対して反応しやすい。
- ・興味の対象があまり多くはない。
- ・ふれあい遊びは好き。

環境や状況（空間、モノ、人、時間など）

- ・教室内は園児20名と担任保育士、加配保育士1名がいる。
- ・遊びの種類別に場所が区切られている。
- （おもまごとコーナー、ブロックコーナーなど）
- ・コーナーによっては人が密集するところもある。
- ・外遊びが終わった後の、自由時間に起こった

仮説を考える

自分の気持ちを認識したり、言葉で伝えることが難しい。  
本人ができる方法で気持ちを伝えようとしたのかもしれない。

叩きにたたく人に対して、気持ちが落ち着かない状況だったのかもしれない。

興味の対象が多くはないことから、教室の中で他に楽しめる遊びが少ないのかもしれない。

仮説に基づく支援の手立てを考える

- ・本人の気持ちを保育士が代弁して伝えるようにする。
- ・言葉以外でも本人が気持ちを伝えられる手段を考える。
- ・混乱が生じやすい場面では、支援者が側について状況を説明するなど、状況を理解しやすくなる工夫をする。
- ・本人がどんな遊びを好んでいるのかを把握する。現在好きな遊びを中心に興味の範囲を広げられるよう関わる。

## 気になる行動を考える時に大切なこと

～良い行動に注目する～

## 良い行動に注目する

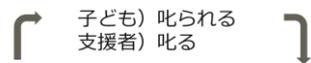
気になる行動について考えるときには、困った行動に注目して減らそうとするだけでなく、良い行動を増やしていくことも大切です。

そのためには、気になる行動が出ない時や、良い行動ができていない時に注目することがポイントです。

良い行動を増やしていくことで、相対的に困った行動（気になる行動）を減らしていくことにもつながります。

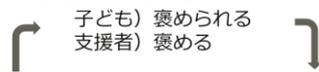
## 好循環の関わりを意識する

### △悪循環の関わり



困った行動は 子ども) ダメな子...  
無くならない 支援者) 叱ってばかり

### ◎好循環の関わり



良い行動が増える 子ども) できた!  
⇒困った行動が減る ⇔ 支援者) 嬉しい

どんな些細なことでもOKです。褒める・認める関わりをしていきましょう。

\* 「ほめ方」については、動画「配慮の必要なお子さんへのかかわり方と支援のヒント（乳幼児期・学齢期向け）」にて説明していますのでご参照下さい。

## 気になる行動に注目すると…

大人からの注目は子どもにとってメリットとなることが多い。  
そんな中、どうしても問題行動や目立つ行動が気になり、  
そういう時に本人に関わるが多くなります。

それを繰り返していくことで、問題行動や目立つ行動が増えて  
しまうことがあります。

（関わりのポイント）

- ・問題行動も人に迷惑をかけないものであれば、スルーする。
- ・良い行動をした時にしっかり認める。

### 気になる行動（問題とされる行動）は…

「周りを困らせる子」だと思われがちですが、実は「困っている子」「支援を必要としている子」かもしれません。

本人なりに「上手くいかなさ」「わからなさ」を感じ、精一杯過ごしています。

「問題行動をどうにかしよう」「なんとか集団の中に入れてもらおう」ではなく、本人の特性や環境などを考慮したうえで「この子はどんなことに困っているのだろうか？」という視点でお子さんの支援を考えていくことが大切です。